

はいのたね



予防接種のお知らせ



10月1日より、2014年度の高齢者肺炎球菌ワクチンの定期接種とインフルエンザ予防接種が始まります。

肺炎球菌感染症は頻度が高く、しかも重症化しやすく、65歳以上の高齢者においては、肺炎球菌が肺炎の原因菌の第一位を占めています。肺炎球菌ワクチンは1回の接種で肺炎球菌の23種類の型に対して免疫をつける事ができます。現在90種類以上の肺炎球菌の型が報告されていますが、この23種類の型で成人の肺炎球菌による感染症の80%以上がカバーでき、効果は5年以上持続します。本年度の肺炎球菌ワクチンの定期接種対象者には福山市より予診票の送付があり、御持参頂きますと3000円で接種致します。(一般9000円)尚、低所得者世帯に該当される方は、福山市からの証明書を御持参頂きますと0円で接種する事ができます。

インフルエンザ感染症は、38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛等、全身の症状が突然現れ、併せて喉の痛み・鼻汁・咳等の風邪のような症状もみられます。また、高齢者の方や免疫力の低下している方は肺炎を伴う等、重症になる事もあります。インフルエンザワクチンは、感染を防ぐ効果はありませんが、重症化を防ぐ事ができ、接種してから2週間後より5ヵ月間効果があります。その為、12月中旬までには受けられる事をお勧めします。費用は、福山市高齢者接種対象者は1000円、一般は3700円でお受け致しております。尚、低所得者世帯に該当される方は、福山市からの証明書を御持参頂きますと0円で接種する事ができます。

2泊3日の台湾研修へ行って来ました。



親日交友の街並みは、どこか日本に似ています。

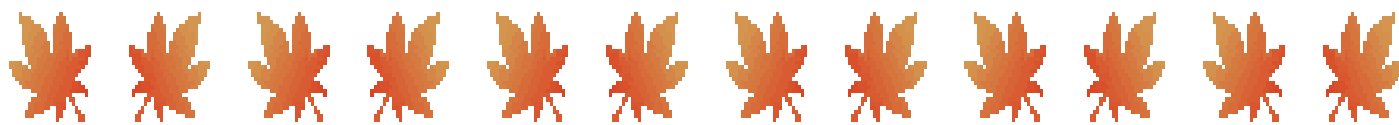
日本と同じ駅名が台湾に“32”もある事には驚きました。



宮崎駿監督の「千と千尋の神隠し」の映画で有名な舞台となった九份では本場のお茶を頂きました。

とても楽しい思い出が出来ました。

皆様、台湾に足を運んでみてはいかがでしょうか？



肺癌で死なないために・・・

院長：井上文之

従来、日本においては胃癌の死亡率が高かったのですが、ヘリコバクタ・ピロリ菌が発見され、胃の検診がすすみ、徐々に低下してきつつあります。近年、日本において肺癌の死亡率が上昇し、男性における年齢調整死亡率では、1993年より胃癌を抜いて肺癌がトップになっています。肺癌で死なないためには、予防と早期発見が大切です。



ある患者さんは、毎年きちんと検診を受けていましたが、タバコを吸っていました。ある年、検診で早期肺癌が見つかり、主治医に、「私は毎年きちんと検診を受けているのにどうして肺癌になったのだ。」と聞きました。これはまちがいで、検診は早期発見をするためのもので、発癌の予防にはなりません。予防にはタバコを止める方が、はるかに効果があるでしょう。この患者さんは毎年検診を受けていたので、肺癌にはなりませんが、早期発見することができ、手術をし、現在術後10年を過ぎましたが健在であります。

次に大切なことは、死亡率と罹患率（病気にかかる率）との差です。つまり実際の患者さんの数は、未だに胃癌がトップであり、死亡率は肺癌がトップ。これは、胃癌にかかる患者さんは肺癌よりも多いのですが、肺癌に比べ胃癌の患者さんは「治っている」ということです。つまり治癒率が高いから死亡する患者さんが少ないのです。しかし、肺癌の場合は、胃癌ほど治癒率が高くありません。これは、肺癌が、病気としての自覚症状が乏しく早く転移しやすいからです。私たちの体内の血液のほとんどは肺を通ります。肺を通して酸素を取り込み、炭酸ガスを放出しているのです。ですから、肺は大変血流が良く、肺にできた癌はすぐに血流に乗って癌細胞が全身に広がりやすく、ほかの癌に比べて進行が早くなってしまいます。また、肺は人間が生きていくうえで非常に大切な呼吸を担当しています。肺は少なくなれば、呼吸が苦しくなり、切除量もあまり多くは取ることが出来ません。つまり癌が進行すると手術で取り除きにくくなります。しかし、肺癌も近年、手術手技、化学療法の飛躍的な向上により、治癒率が高まっています。早期であれば9割以上の方が治癒しています。

肺癌には腺癌・扁平上皮癌・大細胞癌・小細胞癌と4つのタイプがあります。前3つのタイプ（腺癌・扁平上皮癌・大細胞癌）は癌の性格が小細胞癌とは大きく異なり、非小細胞肺癌と一括して呼んでいます。非小細胞肺癌は、手術可能ならば手術がベストな治療法で、進行していたり、他に病気があったり、高齢であったりして手術ができない時は、化学療法・放射線療法の適応となります。近年制癌剤や分子標的治療薬等よく効く薬が多数使用できるようになっています。小細胞肺癌は診断された時にはすでにリンパ節等に転移していることが多く、手術になることは稀で、初めから化学療法・放射線療法となります。

もし、まだタバコを吸っている人がいましたら、早めにタバコを止めて、肺癌・肺気腫にならないようにしましょう。当院では禁煙補助薬を使った禁煙指導もしています。

